

来週の「売り物」記事はこれ



2011年10月7日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

来春から始まる介護新サービスとは 暮らしナビA面 14日(金)

介護保険法の改正で、来年4月から在宅介護を24時間体制で支援するサービスが始まります。ヘルパーが1日に何度も訪問したり、24時間、呼び出しに応じて訪問するシステムなど、今まではなかった介護も可能になります。サービスの内容や課題を紹介します。



夜更かしの子どもが減っている？ 教育面 16日(日)



2010年の幼児健康度調査によると、夜更かしをする6歳以下の子どもは10年前と比較して大幅に減少しているそうです。経済環境の悪化などから、働く母親が増え、子どもを早く寝かしつける家庭が増えるなど、さまざまな要因が考えられるようです。

コツコツと投資する若者 暮らしナビA面 12日(水)

市販のマネー本などを読んで知識を身につけ、自分の限られた資産をコツコツ増やそうとする若者が増えているようです。マネーゲームでもギャンブルでもない、地道に投資を目指す背景には、若者世代の経済的困窮や将来への大きな不安が隠れているようです。



菅直人前首相に密着！

「お遍路」再開の心中は 夕刊特集ワイド面 13日(木)



私にはお大師様との約束がある――。在任中、そんな迷言を口走った前首相の菅直人サンですが、このほど念願かなって四国霊場を巡る「お遍路」を再開しました＝写真。初日に足を運んだのは、在任中の姿を思い起こさせるような「延命寺」。東日本大震災、深刻な原発事故に苦しむ、被災地ではなく、「お遍路」に出かけたのも、まあ、菅サンらしい？ けれども、自らが敷いた「脱原発」路線は風前の灯火。おまけに、お遍路の途中で接した、不倶戴天の小沢一郎・民主党元代表の初公判のニュース……。果たして心穏やかに霊場巡りはできたのでしょうか。ワイドショーでは報じない、巡礼の姿を同行ルポしました。

「知りたいが分かる」がモットーの夕刊「特集ワイド」に、ご期待下さい。

欧州最古のボート大会をルポ — 「月刊ロンドン五輪」

— ヘンリー・ロイヤル・レガッタに残る英国の伝統 —

来夏の五輪開催を前に、英国各地の近代スポーツの源泉を訪ねる特集「月刊ロンドン五輪」の第3回は、172年前から続くボート大会「ヘンリー・ロイヤル・レガッタ」を紹介します。テムズ川上流で毎年夏に5日間開かれる大会は、世界のトップからジュニアまで約1600人が参加します。決勝が行われる日曜日には10万人を超える観客が詰めかける人気イベント。スーツやドレスで正装した会員の姿も含め、英国のスポーツを象徴する存在になっています。



運動面「インサイド」

「国民体育大会」の行方は？ — 山口国体からの報告

12日から5回



スポーツの普及や競技力向上などを目的に、終戦直後に始まった国体は、今年の山口大会で第66回を迎えました。全国のスポーツ施設を充実させたと評価もされる大会ですが、最近注目度が下がり、経費負担の大きさが問題になるなど、その存在意義を問われています。県内に居住実態のない選手の参加資格が問われた地元・山口県選手団の事情などをリポートし、現状と「これから」を考えます。12日から5回を予定。